

## 「は」と「が」について

### I. 主題と主語

#### ・国立国語研究所(1978)

- 1) 飛行機が飛んでいます。  
桜の花が咲いた。  
馬はかしこい動物です。
- 2) このパンは母が焼きました。  
この手紙はだれが書いたの？
- 3) 私は彼女が好きです。  
象は鼻が長い。  
このあたりは白樺が多い。  
あなたは京都へ行ったことがありますか？
- 4) もうご飯を食べましたか？  
手を上げろ。  
内閣は即刻退陣せよ！  
五月はじめの朝四時ごろのことです。  
静かだなあ。何だか気味が悪いね。  
奥さん！雨ですよ。

#### 主語の一般的定義

形式的定義：文頭にあつて（名詞は）となるもの。基本的に「～が」で表される。

「～は」または「～が」をともなうもの。

意味的定義：文とは何ものかについて何ごとかを述べるものである。その「何ものか」が主語。動作をする主体。話し手が文中一番重要だと考えるもの。

- 1) 述語を中心として描き出される具体的ないろいろの事象（すなわち「こと」）の中で、それに関与する名詞の役割、言い換えると、その述語に対する補語の意味関係は、「が」「を」「に」その他のいわゆる格助詞で明示される。「が」が表すいろいろな意味関係を一括して「主格」と呼ぶ。
- 2) その補語のどれかを話し手が特に念頭において聞き手との間でそれを話題とし、それについて何事かを述べたり尋ねたりしようとするとき、（ふつうの場合は）「は」として文頭に持ち出す。その際、その補語が「が」または「を」を伴っているときは「は」と交替する。「から」「と」「へ」「で」「より」などを伴う補語のときはふつうはその後に「は」をつける。「に」はその両方の場合がある。「は」を（有題文、題述文）の主題と呼ぶ。

- 3) 文の中には主題をもつものとそうでないもの（無題文）がある。問答など、一つの談話の流れの中では、主題は最初に示されるとあとは省かれるのがむしろふつうである。
- 4) 名詞文（述語が「名詞+だ」の形をとるもの）は題述文であるのが普通である。おおかたの初級の日本語教科書は「何々は何々です」という文型から「何々はどんなです」という形容詞文にうつる。次に動詞文。名詞文、形容詞文は「～は」で始まるのがふつう。形容詞文の場合、「～が」は現象文に出てくる場合がいちばんおおい。動詞文は有題、無題どちらがよりふつうということとは言えない。
- 5) 判断文は「～は～だ。」現象文「～が～だ。否定になると「は」」
- 6) 主格に立つ「は」→主題化。対格以下が主題化すると「対比的になる」  
私の父はすもうを見るのがすきです。  
私の父はすもうを見るのはすきですが…。

cf) There is a book on the desk.      The book is on the desk.

・益岡(1993)

「は」という表現は文を展開するために、ある対象を話題として持ち出すときに使う表現。

- 1) 私は田中です。  
文法はこの本で勉強しました。  
料理は主人が最初に箸をつけます。  
→主題 + 説明
- 2) - 幸司君に会った？  
- ええ、会ったわ。  
→何が主題なのかがその場の状況で分かっているために主題の部分が省略。
- 3) \* どの人はあなたのお兄さんですか。  
\* 一人の男は突然話しかけてきました。  
→主題というものは、ある説明をするための前提として持ち出されるもの。よって、説明の対象である主題の部分で何を問題にしているかが明確でなければならない。
- 4) 孝子はマラソン競技に出場した。  
孝子がマラソン競技に出場した。  
→有題文、無題文

日本人は勤勉だ。

孝子は仕事で忙しい。      cf) 西の空が真っ赤だ。 / 隣が火事だ！

→述語が静的な場合は、有題文になるのが基本。

- 5) バスが来たよ。  
 財布が落ちましたよ。  
 さきほど雨が降り出しました。  
 →無題文（観察された出来事をそのまま言葉で写し取った表現）

・庵(2001,2003)

### 三上章の主語廃止論

- 1) John loves Mary. (He loves her.)  
 John and Bill (love / \*loves) Mary.  
 John (\*love / loves) Mary and Kate.

1. 「は」の兼務: 「は」は「が、を、の、(に)」を兼務する。

- 2) 田中さんはその本を書いた。  
 その本は田中さんが書いた。  
 象は鼻が長い。  
 日本は地震が多い。

c) 無題化 → 主題を取り除く操作。名詞修飾節の中には主題が入らない。

彼は	その本を書いた。	<伝達レベル>
主題	解説	
彼が	その本を	書いた (こと) <命題レベル>
主格	対格	述語

「～に」

- 3) a 日本は温泉が多い。  
 b 日本には温泉が多い。
- a' 日本が温泉が多い (こと)。  
 b' 日本に温泉が多い (こと)。
- 4) 田中さんは英語が話せない。  
 田中さんには英語が話せない。  
 私は子供がいる。  
 私には子供がいる。  
 彼は他人の苦しみがわかる。  
 彼には他人の苦しみがわかる。

## 「～の」

- 5) 象は鼻が長い。  
象の鼻が長い (こと)。  
象が鼻が長い (こと)。
- 6) 京都は秋がいい。  
B氏は、奥さんが入院中です。  
ネコは、首に鈴をつけてやれ。
- 7) カキ料理は、広島が本場です。  
彼女の婚礼は、わたしがなこうどをした。  
→広島がカキ料理の本場である (こと)。

## 2. 「は」の本務

- 8) 私はその件を田中さんに伝えます。  
私はその件を田中さんに伝え (ること)。  
→文末にあってムードを表す「ます」に係るのは「私は」である。  
→「は」は文の主題を表し、文を「主題」と「解説」に二分する。
- 9) 田中さんから私が連絡をもらいました。から：命題レベル、は：伝達レベル  
このにおいは、ガスが漏れているにちがいない。  
→「は」の係り方は虚勢的。そのため、格関係に関わりなく文が成り立つ場合がある。

## ※主語廃止論に対する反論

- 1 0) 田中先生は太郎に本をお貸しになった。  
\*太郎は田中先生に本をお貸しになった。  
→尊敬語における敬意の対象。
- 1 1) 田中さんが山田さんに自分の辞書を貸した (こと)  
田中さんが山田さんに自分の辞書を借りた (こと)  
→「自分 (再帰代名詞)」の先行詞は主格に限られる。  
cf) 太郎は次郎を自分の部屋で勉強させた。
- 1 2) (俺/\*お前/\*あいつ) が持っていこう。(表出)  
(\*私/君/\*彼) が彼女にそのことを伝えてくれ。(働きかけ)  
(\*僕/\*君/子供) が走っている。(述べ立て)  
→共起制限 (人称制限)  
cf) カメラが壊れた。(非意志的自動詞)

## Ⅱ. 「は」と「が」の使い分け

・高野(2003)

### 1. 「が」

#### a) 主語の「が」

##### 主語をマークする

- 1) 誰がきますか。  
鈴木さんがきます。  
\*誰はきますか。

##### 現象文

- 2) 雨が降っています。  
さっき地震がありました。  
松井がホームランを打った。

##### 関係節の中に現れる主語をマークする

- 3) 田中さんが買った車  
山田さんが書いた論文

##### 従属節を含む複文の中の主語をマークする

- 4) 田中さんが引っ越したので、寂しくなりました。  
田中さんが引っ越すまで、寂しくありません。

##### 連続する2つの助詞「の」と「は」によって従属節と主節を繋いでいる、いわゆる分裂文

- 5) 新学期が始まるのは、四月です。  
コンピュータがよく売れるのは、NECです。

##### 慣用的に使われる文

- 6) 気が狂う。  
腹がへる。  
仕方がない。

#### b) 連続して現れる「が」

- 7) 男性が平均寿命が短い。  
日本が男性が平均寿命が短い。
- 8) これからが本番です。  
10ページまでが宿題です。  
ビールは夏の間が一番うまい。

## 2. 「は」

### トピックをマークする

9) ジョンがビルにメアリーを紹介した (こと)

ジョンはビルにメアリーを紹介した。

10) そのバスが長崎から福岡に行く (こと)。

長崎からはそのバスが福岡に行く。

11) あなたは将来何になりたいですか。

わたしは弁護士になりたいです。

\*あなたが将来何になりたいですか。

### 総称をマークする

12) 鯨は哺乳動物である。

太陽は東から登る。

### 対比をマークする「は」

13) 雨は降っているが、風は吹いていない。

中からは見えますが、外からは見えません。

3月までは待てますが、4月までは待てません。

### 連続して現れる「は」

14) 学生が教室で携帯電話を使っていない (こと)。

学生は教室では携帯電話は使っていない。

トピック 対比 対比

cf) 昨日学生がゼミで静かだった (こと)

昨日は学生はゼミでは静かだった。

### 強調をマークする「は」

15) 男はつらい。

どんな機能?

16) 彼は食べては寝、食べては寝の生活を送っている。

平和を祈っては失望に明け暮れる人

17) その宝石は百万円はする。

そこまでは1時間はかからない。

全部は (とても) 食べられない。

- 18) 物事は思うようにはいかないものだ。  
愛さずにはいられない。

・森田(1995)

### 複文の中の「は」と「が」

- 1) 先生は生徒に仕事を頼んだ。

生徒に仕事を頼んだ先生は…。  
先生が仕事を頼んだ生徒は…。  
先生が生徒に頼んだ仕事は…。

- 2) お父さんが起きたとき体操をします。  
お父さんは起きたとき体操をします。

→「が」の主語は、すぐ近くの述語（「起きる」）と結びつき、修飾部分を飛びこえることができない。「は」の主語は修飾部分を飛びこえて文末述語に係る性格がある。  
一般には、「連体修飾語の中では「が」を使い、「は」は入れない」。

- 3) 小型車は通れる吊り橋を架ける。  
cf) 子供は通れる吊り橋を架ける。

- 4) 隣に大きなマンションが建ってから、うちは日当たりが悪くなった。  
私は大島先生から電話がかかってきたとき、まだ寝ていた。

- 5) 私は日本にいる間に、論文を2つか3つ書きたい。  
今の会社に入る前、僕は小さな旅行会社で働いていた。

- 6) 電車が遅れたために、私は大事な会議に遅刻してしまった。  
「村上春夫の新しい論文、もう読みましたか。」  
「ええ。あれは先生がおっしゃっていた通り、素晴らしい論文ですね。」

- 7) 私は家を建てるために、ボーナスをほとんど貯金している。  
「この仕事、ほんとうに期日までにできるんでしょうね。」  
「すると約束した以上は、私はかならずやりますよ。」

・野田(1996)

## 「は」の基本的な性質

1. 「は」は格を表さない。

→「は」のついた名詞がいつも同じ格を表すのではなくて、動作の主体になったり動作の対象になったりするからである。

1) 子供たちはカレーを作っています。

カレーは子供たちが作っています。

河原では子供たちがカレーを作っています。

2. 「は」は主題を表す

→「は」は、聞き手にとって関心がありそうな名詞の後について、その名詞がその文の「主題」であることを示す働きをする。

3. 「は」が使われる文

→「が」や「を」のような格成分の名詞が主題になった文のほか、連体修飾の「の」の中の名詞が主題になった文、被修飾名詞が主題になった文など、いろいろなものがある。

2) カレーは作り方が簡単だ。

カレーの作り方が簡単（なこと）

レトルトのカレーは1人前200gが標準だ。

1人前200gがレトルトのカレーの標準（であること）

カレーは辛いのがいい。

辛いカレーがいい（こと）

4. 文章・談話の中の「は」

→「は」が使われる文は、前の文脈にでてきたものや、それに関係のあるものを主題にする。そのため、文章・談話の中では、前の文脈の話題を継続していくのに使われる。

5. 従属節の中の「は」

→主題の「は」は、「たら」「とき」「ため」のような従属節の中には出てこない。

しかし、独立した文に近い性質を持っている「けれども、が、から」は現れることがある。



3) この店のカレーはおいしい。

\*この店のカレーはおいしいことはみんな知っている。  
この店のカレーがおいしいことはみんな知っている。

cf) 肉はもってこなかったから、野菜カレーにしよう。

6. 対比的な意味

→主題を表す働きが弱く、対比的な意味を表す働きが強いものがある。

4) 子供たちはカレーを作っているが、ご飯は炊いていない。

### 「が」の基本的な性質

1. 格を表す

→名詞の表す人やものが、動詞述語の表す主体であるのか、対象であるのかといった関係を表す「格助詞」である。

5) 太郎がホームランを打った。

風が弱かったら、あれはホームランにはならなかつたらう。  
太郎はホームランを打つのが好きだ。

2. 「が」は主題ではないことを表す。

6) 太郎はホームランを打った。

太郎がホームランを打った。

ホームランは太郎が打った。

ホームランを太郎が打った。

昨日の試合では太郎がホームランを打った。 主題

昨日の試合で太郎がホームランを打った。 非主題

3. 「が」が使われる文

・主題を持たない文

7) そのとき太郎がホームランを打った。

→この種の文では、述語は1回だけの動作や一時的な状態を表すものであるのが普通である。

・述語が主題になっている文。

8) 太郎がキャプテンだ。

キャプテンは太郎だ。「キャプテン」が主題

→「が」が使われる文には、できごとの発生を伝える、主題をもたない文と、述語が主題になっていてその主格が何であるのかを伝える文の2種類がある。

4. 文章・談話の中の「が」

・主題を持たない文

→前の文脈とつながりをもたず、話題を導入したり、転換したりするのに使われる。

9) あっ、太郎が手をふっているよ。

・述語が主題になっている文

→前の文脈にでてきたものや、それに関係のあるものを主題にして、話題を継続するのに使われる。

1 0) 「このへんで、だれかホームランを打たないかなあ。」

「太郎が打ってくれるよ。このところ調子がいいから。」

太郎はこのところウエートトレーニングに取り組んでいる。上半身の筋力アップが目的だそうだ。

5. 従属節の中の「が」

→従属節の中では、文の主題は問題にされないのので、主題を表す「は」は使われず、格を表すだけの「が」が使われるのである。

1 1) 太郎はホームランを打つ。

太郎がホームランを打つことは、みんな知っている。

この試合のホームランは全部太郎が打った。

この試合のホームランを全部太郎が打ったとは知らなかった。

6. 「が」の排他的な意味

→「が」は基本的には文の主題になっていない主格を表す助詞だが、場合によっては、単にそれだけでなく、排他的な意味が強く感じられることがある。

1 2) 太郎がいちばんたくさんホームランを打っている。

ホームランを打つほうが三塁打を打つより簡単だ。

1 3) このバットのほうがホームランが打てる。

(このバットでホームランを打てる)

→「が」格を表す働きは消えて、単に排他的な意味を表すだけの場合。

・藤田(2000)

私が課長にその報告書を出しました。  
私は課長にその報告書を出しました。  
課長には私がその報告書を出しました。  
その報告書は私が課長に出しました。

主題・叙述の定義

主題：話者が聞き手と共有したいこと

叙述：話者が聞き手に知らせたい新しい情報。

主題になれるもの

- 1) 会話の中ですでに話されている事柄を指す。  
→田中さんは学生なんですよ。知っていました？
- 2) 話者と聞き手の間で視覚的に分かち合われているものを指す場合。  
→この本は面白いですよ。(本屋で)
- 3) 話者の叙述が聞き手に肯定されるという確信がある場合。  
→英和辞典は(おいて)ありますか。(本屋側にむかって)  
→宿題はしてきた?(先生が授業の始めに)
- 4) 聞き手に理解されていると思われる事柄を指す場合。  
→ああ、あれは古かったから捨てちゃったよ。
- 5) 定義づけや数式のように、 $X = Y$ が成り立つ場合。  
→鯨は哺乳類です。  
1 + 1 は 2 だ。

・庵他(2001)

「は」と「が」の使い分け

<規則1>

従属節・名詞修飾節の中では「が」を使う。ただし、対比的・並列的な意味を表す従属節では「は」を使う。

- 1) 彼が来たので、パーティーはおもしろかった。  
私が生協で買った靴下はこれです。  
田中さんがこっちに走ってくるのが見えた。  
田中さんは英語が得意だが、山田さんはドイツ語が得意だ。

<規則2>

述語が動詞以外(形容詞・名詞+だ)のときは通常「は」を使う。動詞の場合でも次のときは通常「は」を使う。

- ①主語が「私」「あなた」（1、2人称）である場合
- ②恒常的な出来事を表す場合
- ③否定文である場合

2) 山田さんは英語の先生です。

この荷物は重い。

彼は毎日公園を走っている。 cf) 彼（は／が）公園を走っている。

私は映画館へ行った。 山田さん（は／が）映画館へ行った。

雨は降っていない。 雨が降っている。

### <規則3>

主語が新情報なら「が」を、旧情報なら「は」をつける。

### <規則3-1>

疑問語疑問文において、疑問語（疑問詞）が主語なら主語の疑問語（疑問詞）に「が」を、疑問語（疑問詞）以外が主語なら主語に「は」をつける。

3) 山田さんが英語の先生です。

この荷物が重い。

彼が毎日公園を走っている。

だれが来たのですか。 cf) ×だれは来たのですか。

来たのはだれですか。 ×来たのがだれですか。

雨が降っている。

公園で子供が遊んでいる。

### ・菊地(2003)

#### 現代語の「XはYがZ」文と<例外>

##### 1. 「象は鼻が長い」型の文と<例外>

1) 象は鼻が長い。／この本は表紙が厚い。／A大学はキャンパスがきれいだ。

→「XのY」いえるXとYについて、そのYに対応する述語Zを用いて「XはYがZ」型の文（Xを主題化した文）を作ることができる。

2) ??銀はナイフがなくなった。

（「の」が材質など「である」という意味を表す場合は、例外である）

3) Aさんは眼が大きい。Aさんは字が個性的だ。Aさんは考え方が古い。

4) ? Aさんは靴が黒い。

5) Aさんは靴が重いんだ。

6) A先生は、お弟子さんたちがみな大成している。

(属性・性質・状況を表すわけではない。A先生についての、いわば<意味のある情報>として機能)

7) 金はスプーンがなくなった。銀はナイフがなくなった。

→問題の「XはYがZ」文が成り立つための条件は、「YがZ」の部分がXについての<意味ある情報>として機能することである。

→「の」の種類によって、「YがZ」の部分が、Xについての<意味のある情報>として成立しやすい場合と、成立しにくい場合がある。

## 2. 「カキ料理は広島が本場だ」型の文と<例外>

8) カキ料理は広島が本場だ。「YがXのZ (だ) → XはYがZ (だ)」

9) この芝居はあの子が主役だ。 ??この芝居はあの子が端役だ。

10) この芝居は田村正和が端役だ。

## 3. そもそも<例外>的とも見られる<従属節中からの主題化>

11) [[Aさんが昨日買ってきた]本]がそこに落ちている。

??Aさんは、昨日買ってきた本がそこに落ちている。

12) [[Aさんが書いた]本]がよく売れている。

Aさんは、書いた本がよく売れている。

## 引用文献

庵功雄(2001)『新しい日本語学入門』スリーエーネットワーク

庵功雄(2003)『「象は鼻が長い」入門』くろしお出版

庵功雄他(2001)『日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

菊地康人(2003)「<周辺><例外>の魅力ーそこから見えてくるものー」『日本語文法学会第4回大会発表論文集』

国立国語研究所(1978,1981)『日本語の文法 上・下』

高橋泰邦(2003)「「が」と「は」 : part I、II」『長崎大学留学生センター紀要』 pp.1-41

野田尚史(1985)『セルフ・マスターシリーズ1 はとが』くろしお出版

野田尚史(1996)『「は」と「が」』くろしお出版

藤田直也(2000)『日本語文法 学習者によくわかる教え方ー10の基本ー』アルク

益岡隆志(1993)『24週日本語文法ツアー』くろしお出版

森田良行(1995)『日本語の視点』創拓社